

新しい文化を 築いた人たち

諏訪 富多

2023.4.1 ~ 2024.3.10

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」、女性民俗学の大家「瀬川清子」の三名を常設展示とし、さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

- ◆第1次展示 H2.7 - H3.6
瀬川 清子 (毛馬内)
杉山万喜蔵 (尾去沢)
小田島樹人 (花 輪)
関直右衛門 (八幡平)
阿部 藤助 (八幡平)
- ◆第2次展示 H3.7 - H4.6
小田島由義 (花 輪)
浅井 小魚 (大 湯)
田村 徳治 (花 輪)
大里武八郎 (花 輪)
渡部 繁雄 (八幡平)
- ◆第3次展示 H4.7 - H5.7
阿部 恭助 (尾去沢)
立山第四郎 (毛馬内)
川村 竹治 (花 輪)
諏訪 富多 (大 湯)
- ◆第4次展示 H5.8 - H6.7
田中 北嶺 (毛馬内)
坂田 祐 (大 湯)
大里 周蔵 (花 輪)
栗山文次郎 (花 輪)
高杉重右衛門 (尾去沢)
- ◆第5次展示 H6.8 - H7.9
浅利 佐助 (花 輪)
宮城佐次郎 (花 輪)
伊藤 良三 (毛馬内)
立山 林平 (毛馬内)
阿部 貞一 (八幡平)
- ◆第6次展示 H7.10 - H8.9
児玉 高慶 (花 輪)
柴田 春光 (毛馬内)
阿部 六郎 (花 輪)
- ◆内藤湖南生誕130年企画展
- ◆第7次展示 H9.10 - H10.9
内田 武志 (尾去沢)
豊口鋭太郎 (毛馬内)
種市 靈山 (毛馬内)
- ◆和井内貞行生誕140年企画展
- ◆第8次展示 H11.11 - H12.10
高橋 克三 (毛馬内)
- ◆第9次展示 H12.11 - H13.11
黒沢 隆朝 (花 輪)
大里 健治 (毛馬内)
- ◆第10次展示 H13.12 - H14.11
石田 収蔵 (花 輪)
- ◆第11次展示 H14.12 - H15.11
石川 伍一 (毛馬内)
- ◆第12次展示 H15.12 - H16.11
小松 五平 (大 湯)
川村 薫 (花 輪)
- ◆第13次展示 H16.12 - H17.11
相川善一郎 (花 輪)
馬淵テフ子 (八幡平)
- ◆第14次展示 H17.12 - H18.11
川口 月嶺 (花 輪)
泉澤 織太 (毛馬内)
" 牧太 (")
" 恭助 (")
- ◆第15次展示 H18.12 - H19.11
佐藤要之助 (花 輪)
" 良太郎 (")
" 良雄 (")
- ◆第16次展示 H19.12 - H20.11
小田島艸子 (花 輪)
鎌田 露山 (毛馬内)
- ◆第17次展示 H20.12 - H21.11
山先 青山家の人々 (尾去沢)
山先 川口家の人々 (尾去沢)
- ◆第18次展示 H21.12 - H22.11
瀬川 清子 (毛馬内)
- ◆第19次展示 H23.3 - H24.3
先人顕彰回顧展
- ◆第20次展示 H24.10 - H25.3
和井内貞行「没後90年展」
- ◆第21次展示 H25.6 - H25.12
柴田 春光 (毛馬内)
- ◆第22次展示 H26.8 - H27.6
内藤湖南「没後80年展」
- ◆第23次展示 H27.6 - H28.3
畠山文象遺墨展 (毛馬内)
- ◆第24次展示 H28.4 - H29.3
内藤湖南「生誕150年展」
- ◆第25次展示 H29.4 - H30.3
岩館 知義 (大 湯)
松岡 隆一 (花 輪)
- ◆第26次展示 H30.4 - H31.3
戊辰戦争の中の鹿角
- ◆第27次展示 H31.4 - R元.9
内田武志・ハチ (尾去沢)
- ◆第28次展示 R元.10 - R2.3
内田武志・ハチ (尾去沢)
- ◆第29次展示 R2.4 - R3.3
湯瀬勇七・小笠原達 (花輪・大湯)
- ◆第30次展示 R3.4 - R4.3
相馬大作事件と鹿角
- ◆第31次展示 R4.4 - R5.3
立山家の人々 (毛馬内)
- ◆第32次展示 R5.4 - R6.3
諏訪 富多 (大 湯)



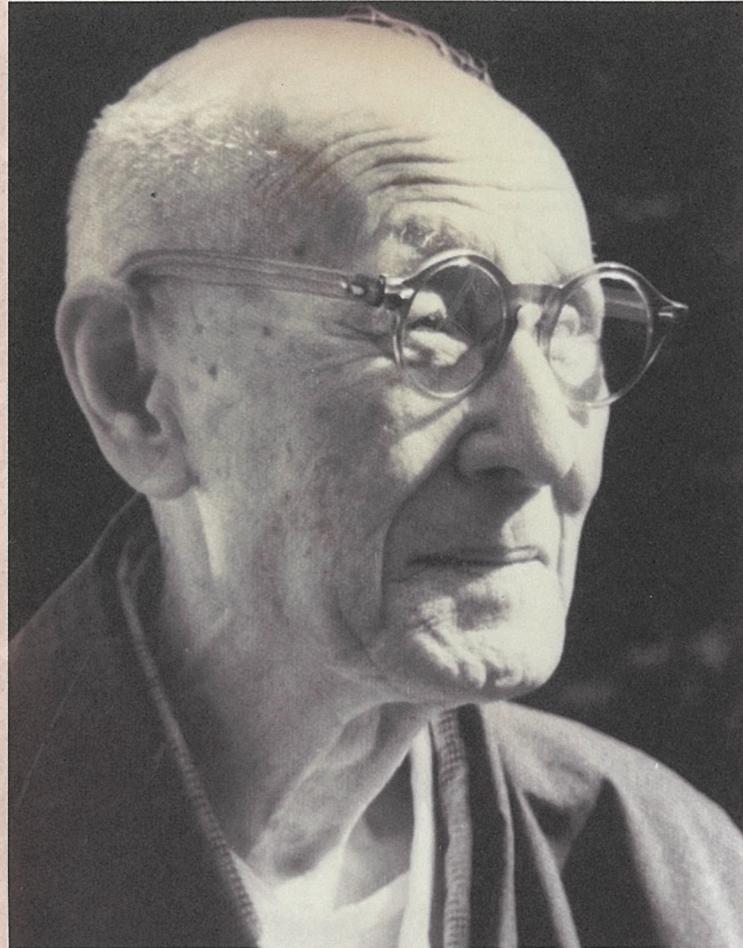
鹿角市先人顕彰館

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎 3 番地 2

Tel 0186-35-5250

E-mail senjin@ink.or.jp

地域産業、観光振興に貢献した東北有数の文化人



Tomita Suwa

諏訪 富多

す わ とみ た

1883 ~ 1981 (大湯)

◇開拓・開発事業

大湯村農会長として、鉾山煙害に苦しむ七滝村の農家のため、私財を投じて人跡未踏の大清水の開墾指導に当たった。また、中通から寺坂に至る台地に安久谷川より引水して開田する耕地整理組合に、組合長として関わった。更に十和田高原の田代平・大平・熊取平での酪農を中心とする理想郷建設に携わった。

◇十和田高原高天原神都論

十和田高原十和利山上に日本太古の神を祭り、その中腹の迷ヶ平や田代平に皇大神（すめおおがみ）が都を造られたとする十和田高原神都論を唱えた。

◇殖産興業と十和田湖観光開発

鳴子から小松五平を招いて制作した大湯こけしや名古屋の陶工佐藤雲山を招いて制作した大湯焼、野菜や椎茸の促成栽培、ニジマスの養殖場開設等、様々な殖産興業を推し進めた。更に、大湯ホテルの開業、十和田湖遊覧会社の設立等十和田観光開発に尽力した。

◇大湯郷土研究会

大湯環状列石の発見後まもなく、史跡の調査・保存に向けての地元の対応を協議するために初代会長として大湯郷土研究会を設立した。大湯郷土研究会は、現在も富多の遺志を受け継ぎ、脈々と活動を継続している。

◇創作活動

諏訪富多は、若い時から晩年に至るまで、漢詩、新体詩、短歌、俳句、日本画、書道等幅広い分野での創作を続けた文化人であった。

略歴 a brief personal record

- 明治16年(1883) 音治・ナミの長男として大湯に生まれた。13歳の時負傷して、左眼を失明した。
- 明治43年(1910) 東京帝大文科大学哲学科卒業。帰郷し、明治45年には大湯村農会長となった。
- 大正7年(1918) 大湯国有林開墾組合長として大清水の原生林153haの開拓を指導した。
- 大正12年(1923) 大湯、錦木、柴平三ヶ村耕地整理組合長として中通台地の耕地造成に努力した。
- 大正14年(1925) 十和田湖遊覧会社設立。
- 昭和8年(1933) 大湯郷土研究会を組織し、会長となって大湯環状列石の調査保存を主導した。
- 昭和22年(1947) 大湯町長を二期務めた。
- 昭和41年(1966) 河川漁業組合長として、大清水のニジマス養殖を推進した。
- 昭和44年(1969) 勲六等旭日単光章受章。
- 昭和49年(1974) 秋田県文化功労者、鹿角市功労者表彰。
- 昭和56年(1981) 4月29日死去。享年98歳。